令和３年６月 29 日

学校法人三幸学園
東京未来大学福祉保育専門学校
校長　菅井　健治　殿

学校関係者評価委員会
委員長　早﨑　直人

学校関係者評価委員会実施報告

令和２年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　早﨑　直人　（足立区福祉部くらしとしごとの相談センター　所長）
②　堤　隆太　（飛鳥未来高等学校　綾瀬キャンパス　主幹教諭）
③　平井　宏子　（SANKO 日本語学校東京　教務主任）
④　上原　千晶　（ぽけっとランド綾瀬　園長）
⑤　松縄　和彦　（社会福祉法人　三幸福祉会　理事）
⑥　菅野　寛人　（東京未来大学福祉保育専門学校　第４期卒業生）
⑦　佐藤　心咲　（東京未来大学福祉保育専門学校　第５期卒業生）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
令和３年６月 29 日（会場　東京未来大学福祉保育専門学校　207 教室）

３　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和２年度　学校法人　三幸学園　東京未来大学福祉保育専門学校
自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　小平　香織
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　早﨑　直人

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、福祉保育分野の学校として「福祉・保育現場に貢献することで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、福祉保育分野として「豊かな人間性と確かな技術で、関わる人に、幸せや希望を提供できる人」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り

●主体的に学べる仕組み作り＝生徒会の活用

コロナ禍における学校運営ということで、例年のような委員会や行事の運営が全く出来なかった。
生徒会に関しても今年度は発足を見送り、新しい形での主体性を育むアプローチが必要とされる年となった。

●生徒の長所を見つけ・伸ばす仕組み作り

学校独自にコロナ対策を実施しながらの行事を開催した結果、今まで以上に生徒の主体性が試される場の提供が出来た。保育科においてはこども達を呼ばない形での保育発表会を運営した。外部の方を意識する必要がないため、委員へのお礼の場を設けたり、１年生から2年生に対してお礼の場を設けたり等、自分たちの行事を自分たち全員で作り上げる中でより主体性が発揮できる行事となった。介護福祉科は例年通りの形式で介護発表会を開催した。委員を中心とした運営方法で、主体性を発揮することが出来た。

●評価基準の明確化＝ルーブリックの導入

教職員が一同に集まり開催される全体会議がオンライン開催となったため、新しい取組であるルーブリックの導入は見送ることとした。評価基準についてはシラバスに明記し公開することにより、全教員間で公平・公正な評価をすることを確認した。

●専門教育の充実と魅力的な授業展開

コロナ禍における学校の取組として、全教員がオンラインでの授業を実施した。初めてのオンライン授業にも関わらず、スピーディに体制を整え実施することが出来たため、コロナ禍においても必要な教育課程の提供、専門教育を実施することが出来た。今後は、オンライン授業においても対面授業と同様の質の高い授業運営が求められる。

②　学校関係者評価委員会コメント

保育発表会について

・佐藤　心咲委員（保育科について）

昨年度は在校生として保育発表会に参加し、非常に心に残る行事となった。こども達を呼べなかったことは、学

びの一環としては残念な思いもあったが、却って保育発表会を盛り上げる為にはどうすれば良いか、チーム一丸となり準備を進めることができた。例年より主体性をもって保育発表会を実施できたと実感している。

介護発表会について

・菅野　寛人委員（介護福祉科について）

　介護発表会を通じて学んだ経験が、社会に出て主体的に行動することへと繋がり、現場で勉強会を開催するなどして活かすことができた。今後も発表会という場があると、学生自身の将来の糧になるのではないか。

評価基準の明確化について

・堤　隆太委員（保育科・介護福祉科について）

　高等学校では試験の点数により絶対評価で明確化させている。評価基準をシラバスに明記し公開することは、公平・公正な評価をする上で重要であり、今後も続けていってほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

・入学前に学校の理念・目的・人材育成像等を改めて周知する場として、入学前オリエンテーションや新入生保護者会を設けているが、対面でなくオンライン開催に変更した。変更による大きな課題は感じていないが、正しい効果測定が必要になる。

②　今後の改善方策

・生徒や保護者の声を拾い上げ、正しく学校の理念・目的・人材育成像をご理解いただけていることを確認していく。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

法人理念について

・松縄　和彦委員（介護福祉科について）

　介護の現場において、現在はコロナ禍で実施できていないが、行事等で利用者様・ご家族の皆様方に集まっていただいた際に法人理念をお伝えしている。入学前に学校の法人理念を確認することは、学校生活を送る上で指針になる。入学前オリエンテーションをオンライン開催に変更した際に、学校の法人理念を伝えた事は重要な事であったと考える。

・上原　千晶委員（保育科・介護福祉科について）

　コロナ禍により職員が集まっての研修は実施できていないが、オンライン研修時に保育理念を再確認している。また各保育園で保育理念に対する保育目標を決めており、目標を達成するために毎月の会議内で振り返りを行っている。学校の法人理念を生徒自身が理解しているか常に確認する為にも、生徒が設定した目標を教室に掲示している事は、良い取り組みとなっているのではないか。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①　課題

・教育活動に関して、目標や課題、重点施策等は明確にしており、学校運営に関わる教職員にはしっかり周知できているが、学生に対しては共有しきれていない部分がある。

②　今後の改善方策

・学生に対してホームルーム等で本校の学生として目指してほしい到達点を共有し、学生自身にも目標を意識した学校生活を送ってもらうようにする。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

学校運営について

・早﨑　直人委員（保育科・介護福祉科について）

　保育科の目標設定が「自分の強みを自覚し子どもたち一人ひとりの長所を伸ばせる保育者」と、生徒自身がイメージしやすく身近な目標設定になっていると感じる。一方で、介護福祉科の目標設定は「未来の現場で未来の介護を身につけた介護福祉士」と将来的ビジョンとなっており、保育科のビジョンに比べると少しイメージしづらい印象を受ける。身近なメッセージ性の目標を掲げた方が、生徒も取り組みやすいのではないか。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①課題

・時代の流れが加速している中、今まで以上に関連分野と連携することで、時代のニーズに合わせたカリキュラム作成・見直しが必要。

②今後の改善方策

・教育課程編成委員会や実習先へのアンケートを行い今後の授業展開についてご意見をいただく。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

カリキュラムについて

・上原　千晶委員（保育科について）

現場は学校の授業で習ってきた通りにはならないので、その際にどうするべきなのか、主体的に判断できる臨機応変さを身に着けることが必要。実習先へのアンケートを実施し、今後の授業展開に活かせていくことができれば、より良い学びに繋がるのではないかと考える。ぜひ実行してほしい。

・松縄　和彦委員（介護福祉科について）

　基礎学習的な部分は学んでいるが、現場で知識を結び付けられない事が現状として見受けられる。現場の現状をより学んでもらえるよう、実習先という立場から今後もより強固な産学連携を継続していきたい。

（4）学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

①課題

・ジョブカード作成の未実施。

・保育士取得率 97.1％有資格者。（2 名未取得）

・介護福祉科国家資格取得者：綾瀬校/日本人学生 91.7％留学生 30.7％（全国合格率 70.1％）

②今後の改善方策

【学科全体】

・2020　度はコロナ禍によりジョブカード作成を実施できなかったため、2021　度はその反省も踏まえ計画的に実施していく。

・オンラインを活用した就職ガイダンス、企業説明会を実施し、卒業生講話を検討していく。

【介護福祉科】

・全体会議にて学科会議を実施し、各学科での目標設定・国家資格の合格率向上に向けて、教科間連携を深めるためのグループワークを実施していく。

【保育科】

・保育士への魅力を継続して持ち続けられるような取り組みを授業・ホームルーム、保育体験、実習などで実施し、目標喪失による保育士資格の未取得を防ぐ。

③特記事項

・退学率低減　【2020 年度：3.7％　2019 年度：9.1％】

④学校関係者評価委員会コメント

今後の改善方策について

・菅野　寛人委員（介護福祉科について）

　在校生として通学していた当初、友人同士で国家試験問題を出し合い、アウトプットを意識した勉強法を実施していた。各学科で目標を設定し、グループワークを取り入れる事は重要な機会であり、学びを深める事ができるのではないかと感じる。ぜひ継続していってほしい。

・上原　千晶委員（保育科について）

　人を育てることは難しい。生徒の良い点を引き出し、スモールステップを踏みながら褒めていく。ハードルを上げず、一つ一つできることを伸ばしていくよう指導することで、より保育士資格の未取得を防げるのではないか。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

・就職後、人間関係に悩みすぐに退職してしまうケースが見られた。

・早期離職者に対して適切なフォローが出来ていなかった。

②今後の改善方策

・就職先とのマッチングについて今まで以上に丁寧な支援をしていく。併せて人間関係で悩んだ際に自力で解決できる力も在学中に育てていく必要がある。

・教育課程編成委員会で意見のあった「適正検査」や「自己分析」等を就職指導の授業で導入することを検討する。

・本人からではなく就職先からの情報により離職が発覚した際の、学校からのフォローの体系化を図る。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

就職サポートについて

・佐藤　心咲委員（保育科について）

　担任の先生だけでなく、就職担当の先生からのサポートも併せて受けることができた。学生相談に関する体制が整っており、手厚いサポートを受けられたと感じている。

・菅野　寛人委員（介護福祉科について）

複数の企業様が来校し説明会を実施してくださるが、良い面だけでなくより現場に近い話を伺いたい。実際に働いてみて感じたことなどを、卒業生から在校生に伝えられる場を設けることができれば、ギャップも埋まりやすくなるのではないか。

適性検査・自己分析について

・堤　隆太委員（保育科・介護福祉科について）

高等学校では適格診断を毎年実施している。高校は進学指導の幅が広く、適格診断では向いている職業を示してくれる。適性検査の実施は良いことだが、重要な個人情報となる為、結果の取扱に非常に注意が必要。また適性検査の結果を受けて、生徒自身の考える方向性とギャップがあった際、フォローする体制を整える必要がある。

（6）教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①　課題

・コロナ禍における教室の環境設定改善を試みているが、今後の感染防止に向けてさらなる改善を検討していく。

・コロナ禍におけるインターンシップ受け入れが充足していない状況。

②今後の改善方策

・ワクチン接種。（職域接種の実施）

・引き続き感染防止策の対応。

・インターンシップ受け入れ先の拡大を行う。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

インターンシップの受け入れについて

・松縄　和彦委員（介護福祉科について）

昨年度はコロナ禍により受け入れについて慎重であったが、現在はワクチン接種済の職員が 7 割を越えている。ワクチン接種が普及することで、インターンシップ生を受け入れる為のハードルが下がり、より改善に向かうのではないか。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

・入学後に発達障害や学習障害であることが発覚するケースがあった。

②今後の改善方策

・学園の教育方針のもと、意欲がある入学希望者は積極的に受け入れたいが、それに伴い入学後の学習支援体制を整えていきたい。

・入学前に状況把握ができるよう本人だけでなく保護者との連携も手厚く行う必要がある。本人の能力によりどこまで支援できるか、どこまでを目標とするかの擦り合わせも丁寧に行っていきたい。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

留学生の学校受入れについて

・平井　宏子委員（保育科・介護福祉科について）

　発達障害のある留学生がおり、どのように良いところを延ばしていけるかを考えながら、サポートしている。保護者との連携は必要不可欠となるので、手厚くサポートを行う姿勢を継続していってほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

　なし

【予算・収支計画】

　なし

【会計監査】
　なし

【財務情報の公開】
　なし

②今後の改善方法
【中期計画】
　現在、第2次中期計画（2018年度～2022年度）の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】
　なし

③特記事項
　特になし

④学校関係者評価委員会コメント
　特になし

（9）法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①課題
特になし

②今後の改善方策
特になし

③学校関係者評価委員会コメント
特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題

【保育科】

・コロナ禍により学校主体でのボランティア活動はできていない。

【介護福祉科】

・定期的に実施していたチャレンジド・ヨガがコロナ禍により実施できなかった。

②今後の改善方策

【保育科】

・ボランティアを縮小して実施するなど、コロナ対策を徹底して行うことで、改善していく。

【介護福祉科】

・チャレンジド・ヨガ参加者へ安心して参加いただけるよう、感染予防対策を徹底していくことで、実施できる体制を整える。

③特記事項

【保育科】

・地域支援実践の一環として保育体験を実施。保育発表会で園児を招待できなかったため DVD を作成し、招待予定だった保育園に贈与した。

・地域の子どもたち向けに産学連携のイベントを3回実施。子どもたちに遊べる場を提供した。（おかいものごっこ、パネル発表、ダンスなど）

【介護福祉科】

・学内実習のため外部企業の方を招き講演会を実施した。

・オープンキャンパス時に、障害福祉施設の利用者が作成した手作りの物品（ハンカチ・ティッシュケース等）を販売する場所を提供した。

④学校関係者評価委員会コメント

ボランティアについて

・松縄　和彦委員（介護福祉科について）

　ボランティアを通じて施設内の職員の動きや雰囲気を見てもらい、今後のミスマッチを防ぐことができれば良いと考える。学校が現場と生徒との架け橋となり、今後も積極的な支援を継続していってほしい。

（11）国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	3

現状

年度	入学生	現状
2019 年	3 名	3 名卒業
2020 年	16 名	13 名卒業
2021 年	17 名	現在在籍中

①課題

【介護福祉科】

・2020 年度退学者はいなかったが就職・国家資格合格率（2020 年度 30.7%）が低かった。

・留学生を紹介いただく仲介企業との連携や留学生へのアプローチはできていた。

・入学を応援してくれる奨学金サポーター企業が少ない。

・語学力の差が大きく、授業についていくことが難しい生徒が多い。実習にも影響を与えており、実習評価を下げている。

②今後の改善方策

・企業との連携を深め、スポンサー企業（就職先）開拓を進めていく。（昨年度実施あり）

・2020 年度より三幸学園に留学生サポートセンターを設立したことで、書類手続き等に関し有効的な連携を図れるようになった。

③特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

語学力を身に着ける事の重要性について

・平井　宏子委員（保育科・介護福祉科について）

日本語学校ではなるべくスマートフォンを使わないよう指導しているが、教員との会話でスマートフォンを使用してしまう生徒の姿が見受けられる。留学生を対象とした「日本語フォロー」という授業に加え、留学生サポートセンターからアドバイスを受けられる環境であれば、より強固なサポートを行えるのではないか。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校の取り組みについて、学校関係者評価委員会から概ね適切という評価をいただいた。就職後のギャップを生じさせない具体的な取り組み方法を伺うことができたので、今後も現場・学校が密に連携し、就職サポートの充実性を図っていきたい。

各科の目標について、メッセージ性のある身近な目標設定を提案いただいた。ご意見をいただいた通り、身近な目標を設定している保育科に対し、介護福祉科は未来を意識しており、生徒自身が目標を落とし込みづらい内容になっている。普段から生徒が目標を意識しやすいよう、次年度の目標設定について検討していく。

また保育・介護福祉の現場では、教科書に記載のないイレギュラーな事が多く発生すると現状をご教示いただいた。普段の授業においてマニュアルの知識だけを生徒に伝えるのではなく、臨機応変な対応ができるよう、現場の現状をより一層伝えることに注力し、学生の教育環境と質的向上に努めていく。